

寒玉キャベツ晩秋まき春どり適応品種「TCA-489」

【題名の補足】露地栽培で5月上旬から中旬まで抽台せずに収穫できる品種です。

背景・目的

- 2008年に寒玉キャベツの端境期出荷技術として新作型「晩秋まき春どり」を開発しました。
- 適応品種は「さつき王」、「さつき女王」、「かんろく」の3品種で、適応地域は西北諸県地域です。
- 新作型は、11月上旬に播種し、12月に定植することで、4月下旬から5月中旬まで収穫できます。
- 適応品種が少ないことから、適応品種の拡大が望まれています。

成果の内容

- 「TCA-489」(タキイ種苗)は、5月上旬収穫で約1kg/玉、5月中旬収穫で約1.5kg/玉となります。
- 球型は平型で青果用だけでなく、カット野菜などの加工・業務用にも適します。
- 春先は結球の肥大が旺盛であるため、裂球や過熟球を発生させないように5月中旬までに収穫します。

表1 「TCA-489」の収量及び品質

収穫日	品種名	結球重 (g)	球径 (cm)	球高 (cm)	芯高 (cm)	球形	花芽 発達段階	品質
2017年	TCA-489	944	18.8	11.8	6.7	平型	未分化	良好
5月上旬	さつき女王	575	14.7	10.8	4.8	扁円型	未分化	良好
2017年	TCA-489	1540	20.8	12.4	7.7	平型	未分化	良好
5月中旬	さつき女王	1651	20.9	12.9	8.3	平型	未分化	良好
2017年	TCA-489	2344	22.9	14.1	8.7	平型	未分化	裂球、過熟
5月下旬	さつき女王	2449	22.5	14.2	9.3	平型	未分化	裂球、過熟



写真1 「TCA-489」

成果の活用方法(又は期待される効果)

■新作型では寒玉キャベツが抽台・開花する春どりにおいて、抽台・開花することなく良質の寒玉が収穫できます。

技術開発前



写真2 春どりの球内抽台

技術開発後



写真3 新作型による春どり

■普及対象地域・面積 北諸県地域及び西諸県地域

留意点

■小林市(野尻町含む)、都城市で実証された作型です。それ以外の地域で新作型の導入を検討される方は、御相談ください。(県畑作園芸支場 TEL0986-22-1743)